



Kobe Foo Style

新しい神戸風・食文化の創造。

Kobe Foo StyleのFooは「風土」「Food」「Who」のこと。

神戸の農業に触れながら、神戸の食について考え、誰もが自由に参加しながら新しいふるさと創りを提案します。

週末はふらっと神戸の田舎へ出掛ける。そんな何気ない日常を通じて都会に暮らすひとたちと共に、小粋な神戸風・食文化を創造します。

“私たちは、農業の課題と食の現状を解決するために、それぞれが得意分野に専念して、分業という考えのもと活動しています。”

作り手 消費者と生産者をつなぐのが、神戸の田舎に棲む人間の使命だと考えています。食べる人の顔を思い浮かべながら、米作りをしたいなあ。



農家

伝え手 食べるということは、作る人や農地、ややこしい人間関係や、土や機械や、その背景にある物語をきちんと知ることが大切なんちゃうかなあ。



食農連携コーディネーター (FACO)
上級食育アドバイザー

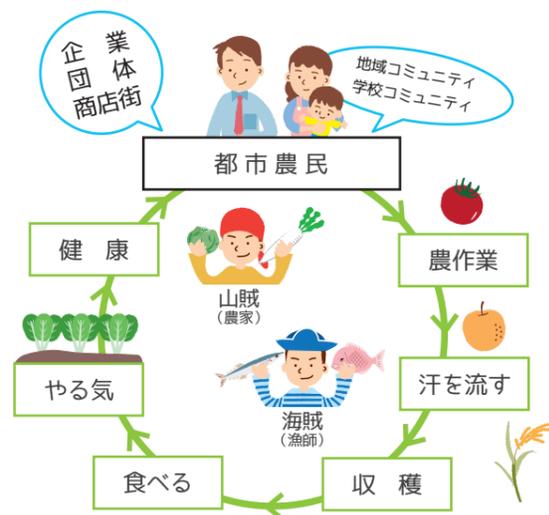
広げ手 収穫までの生長のジカンには、気づきや発見のヒントが埋まっています。ミライへの種まきをお手伝いします。



農場案内人

+ **語り手** + **組み手** + **繋げ手** +メンバー募集中!!

誰かを想うと、みんながつながる。



FARMmeeting

企業さま向けオーナー制農場

Kobe Foo Style事務局

(株)ワードワールド内

〒657-0813

兵庫県神戸市灘区高尾通4丁目2-17-608

☎078-855-5783

✉info@foostyle.jp

🌐www.foostyle.jp

Kobe Foo Style

スタイル
農
ウ
ハ

神戸らしさの、働き方。

FARMmeeting

企業さま向けオーナー制農場



専用農場で「耕す」「種を蒔く」「育てる」「収穫する」「食べる」。

一年を通して体験できる、発見と気づき。

ふりそそぐ陽射しと、心地よい風を感じながら、メンバー間のコミュニケーションを深め、健康で永く働き続けられる職場を——。

農業の力で創造します。

農場会議 FARMmeeting

ワーケーションをこえた
会議の新しいカタチ。
汗を流すと、発想が生まれる。



FARMmeeting とは

merit 1 社員同志のコミュニケーションが深まる

- ・会社から飛び出して、農園でミーティング。井戸端会議感覚でコミュニケーションが深まる。
- ・部署間の隔たりを超えた交流が可能になり、組織が活性化する。

merit 2 社員の心身の健康増進を推進する

- ・遺伝的に人間が持つ自然に対する嗜好性(グリーンケア)で、ストレス軽減、リラクゼーション効果、メンタルヘルス対策や生活習慣病予防に。
- ・急な休職や退職によるリスクを軽減できる。

merit 3 企業価値を高める

- ・社員ファースト企業としての認知を高めることによって、採用活動に有益である。
- ・企業の顧客に対しても、イメージアップを図ることができる。



持続可能

農業が持つ力で
企業を元気にしたい。
それが次世代の農業へと繋がる。



社員同士で井戸端会議をしながら、汗を流そう！

- 企業専用圃場で米や野菜を育てる
- 企業専用畑(畝)で野菜を育てる
- 社員同志のコミュニケーションを深める
- 自分で収穫した農作物をおいしく食べる
- 会社で収穫した米を取引先などに贈る
- 会社で農業部を創る
- 土に触れ、陽にあたり、心身の健康を高める
- 健康経営をめざし、社員の健康維持に務める
- 企業価値を高める
- 専門知識を高めて援農活動をはじめる

FARMmeeting で心と身体を健康に保ちながら、職場の活性化をめざす



健康経営

従業員が元気で長く
働き続けられる
そんな職場を創りたい。



企業の課題

- 少子高齢化による労働力人口の減少
 - 増加する生活習慣病
 - 深刻化する社員のメンタルヘルス不調
 - 医療費の増加など
- ※年収500万円の人が1年間休職した場合の経済的損失は、1,500万円。メンタルヘルスによる経済損失は4兆円にものぼる。(2018年度)



しかし

中小企業では、指標の不足
“何をしたら良いのかわからない”
ノウハウ・予算・人材の不足によって、
健康経営の取り組みに至っていない。

「健康」は、「身体健康」ではなく、「身体的と精神的健康」である
従業員の健康管理を、「コスト」ではなく、「投資」として捉える
従業員の健康管理に対して、「個人任せ」ではなく、「企業として」取り組む
従業員の健康増進を、企業の「経営課題」として捉え、戦力的かつ積極的に推進する
従業員の健康増進によって、「生産性の向上」等を目指し、「企業の成長」を追求する。
日本政策金融公庫総合研究所 中小企業の健康経営より

都市近郊

三宮から地下鉄で30分。
この地の利を生かした
農業という生業を続けています。



都市近郊農家の現状

- 働く場所が近くにあるため、後継者が近隣企業に就職
- 神戸市の総農家世帯5,761軒
うち専業農家1,070軒 兼業農家4,691軒(2021度)
- 従事者の高齢化
兵庫県の農家の平均年齢70.6歳(全国平均67.9歳)
- 食の多様化
食の安全が謳われたり、有機農業にこだわったり、消費者の要求が多様化
- 気象変動による地球温暖化
台風や豪雨などの気象異常による不作
- 神戸は有名だが、農業においては全国に発信できるブランドがない。
「神戸米」を、ブランド化しようと小池農園では商標登録を取得
- 淡路島の玉ねぎや丹波の黒豆のようなブランドに育つには時間がかかる
- 新規就農者が入植しにくい

↓ そんなこんなで、

耕作放棄地が増加

